令和7年は10年に一度、香椎宮　勅祭の年！！

全国で16社、九州では2社しかない勅祭社の香椎宮

- **勅祭**とは・・・

天皇の使者（勅使≒奉幣使）が派遣されて行われる神社の祭祀のことをいいます。※奉幣とは幣帛（お供えもの）を供える行為。

古代・中世において**天皇の即位報告や国家安全祈願のために発遣**された香椎宮奉幣使は、14世紀に途絶えますが、**約400年ぶりの延享元年（1744）甲子の年に再興**されました。

その後、**江戸時代では**、文化元年（1804）、元治元年（1864）と、**60年ごと**に斎行されました。

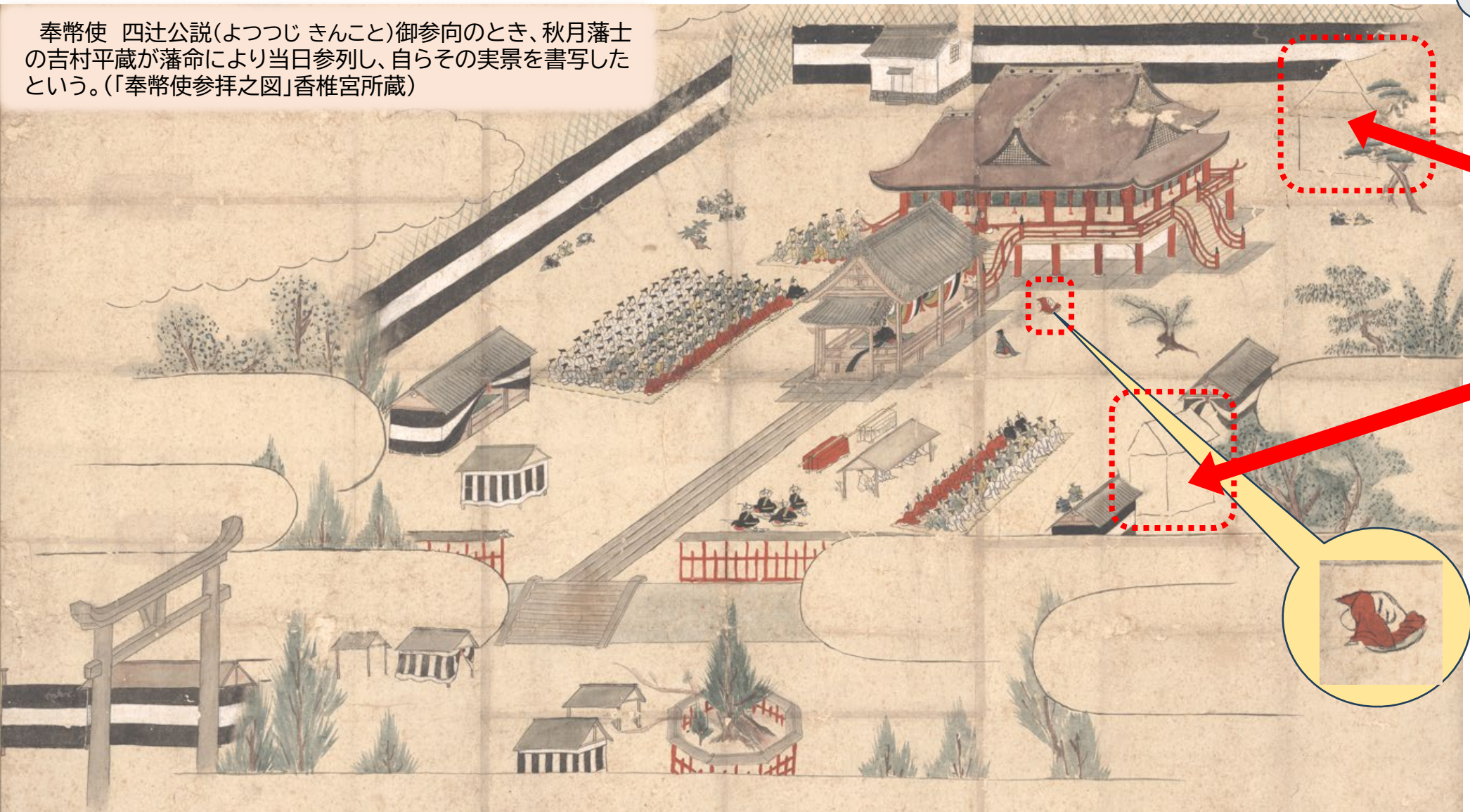
大正14年（1925）以降、10年に一度に改められました。

ナゾシート

絵図にみる文化元年(1804)の香椎宮奉幣使参向

絵図に隠されたナゾを解き明かそう！！

奉幣使　四辻公説(よつつじ きんこと)御参向のとき、秋月藩士の吉村平蔵が藩命により当日参列し、自らその実景を書写したという。(「奉幣使参拝之図」香椎宮所蔵)



左の絵図は1804年に奉幣使が参詣されたときの香椎宮の様子を描いたものだよ。

【ナゾ1】
色がぬられていない建物があるけど、どうしてかな？

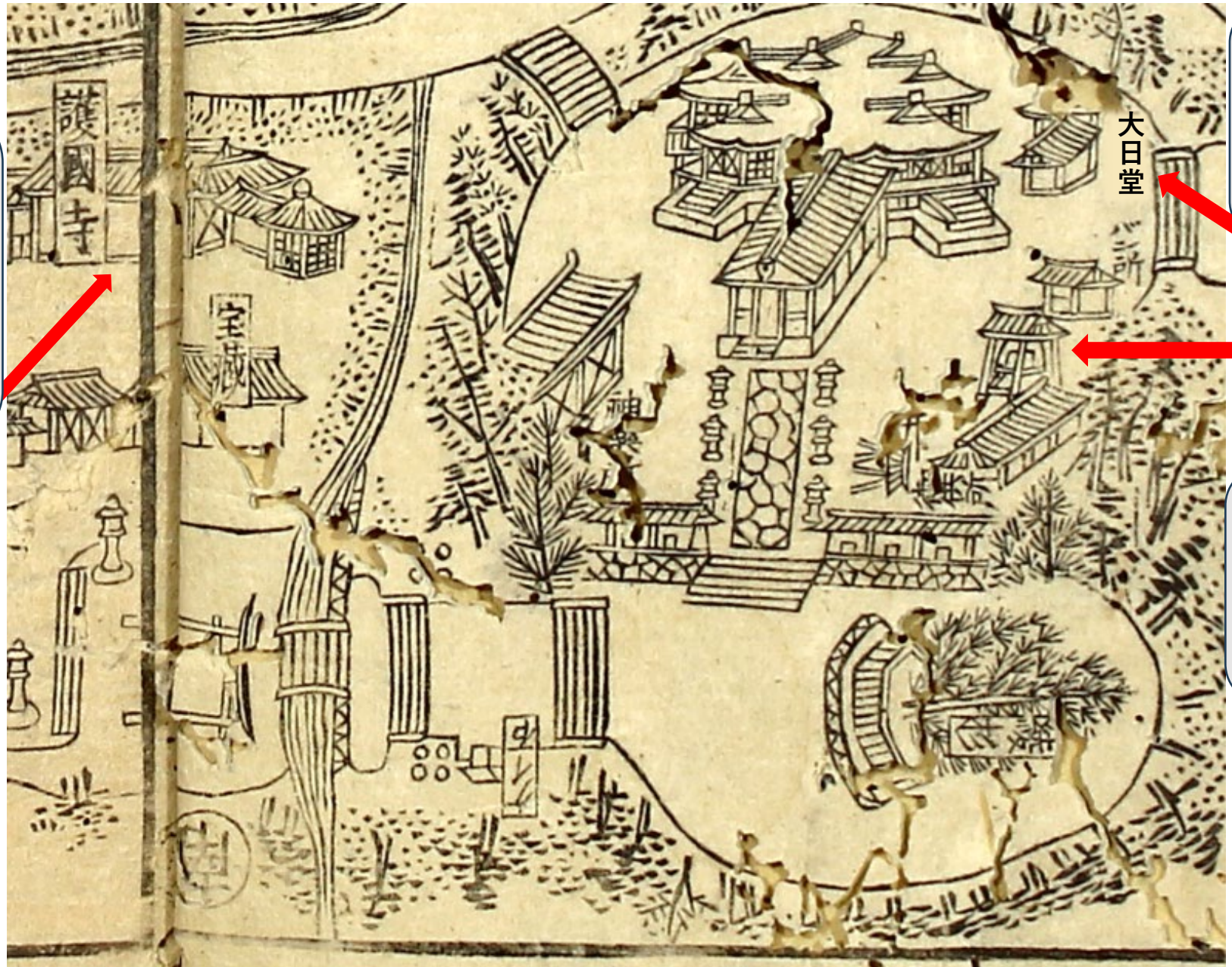
【ナゾ2】
人がたくさん集まっているね。何人いるのかな？
どういう人が集まっているかも気になるね。
(ア)約50人 (イ)約100人
(ウ)約200人

【ナゾ3】
よくみると、一人だけ坊主頭の人がいるよ。どうしてかな？

出典：香椎宮資料「香椎宮奉幣使参拝之図」

ヒント
シート

寛政11年(1799)頃の香椎宮境内図



【ナゾ1のヒント①】
香椎宮の敷地のなかに「護国寺」というお寺があるんだ～！！
神社(神道)とお寺(仏教)、今は別々だけど･･･
江戸時代は神仏習合(しんぶつしゅうごう)といって、神道と仏教が合わさった信仰形態があったんだ。

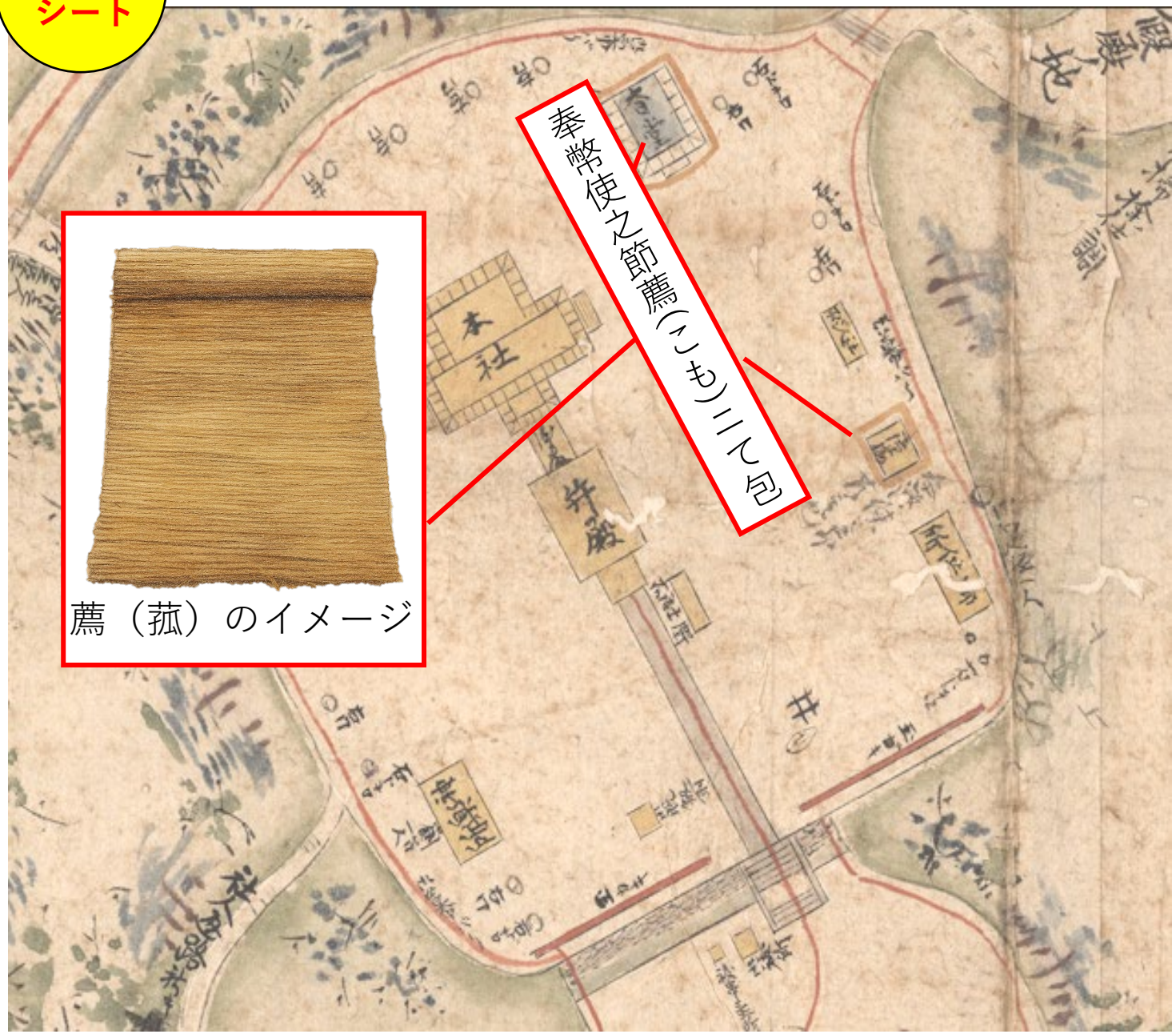
【ナゾ1のヒント②】
今の神社にはなかなか見られない大日堂(大日如来を祀る)と、鐘をつるす建物の鐘楼(しょうろう)が描かれているね！

【ナゾ1のヒント③】
大日堂や鐘楼が描かれている場所とさっきの絵図を見比べてみると、色がぬられていない建物が大日堂と鐘楼ということがわかったかな。

出典：香椎宮資料「香椎宮略縁起」
寛政11年（1799）2月

ヒント
シート

文化元年(1804) 香椎宮境内周辺拡大図



薦（菰）のイメージ

香椎宮本殿

綾杉

【ナゾ1のヒント④】
奉幣使のときに、菰(こも)で大日堂と鐘楼が包まれていることがわかるね！

出典：香椎宮資料「〔御勅使参向御道筋警固配備図〕（香椎宮御仕構惣絵図）」

文化元年(1804)の奉幣使参向の参集状況

ヒント
シート

本絵図にみえる参集者　総勢●●●人

（参考）文献史料が示す参集等
- 奉幣使の供奉（ぐぶ）は129人
- 香椎宮に参集した筑前国中の社家は300余人や401人ともいわれる（位階のある者34人、無位367人）
- その他、黒田家家臣

下に記載した人数を合計してみよう！

香椎宮本殿【国指定重要文化財】
享和（きょうわ）元年（1801）福岡藩主10代黒田長順（ながゆき）（斉清（なりきよ））の再建による

大日堂
菰で隠す

御国中社家
【1列】13　【6列】15
【2列】14　【7列】13
【3列】14　【8列】13
【4列】15
【5列】15　計：112人

黒田家家臣5人

黒田家家臣3人

奉幣使随行
香椎宮社家
計：17人

香椎宮
大宮司
1人

護国寺座主1人

黒田家家臣2人

奉幣使1人

奉幣使随行
輪王寺宮御使1人

衛士ヵ
4人

衛士詰所ヵ
4人

黒田家家臣2人

御国中社家
【1列】13
【2列】11
【3列】11
【4列】11
計：46人

鐘楼
菰で隠す

菰で隠されたイメージ図

出典：香椎宮資料「香椎宮奉幣使参拝之図」
※参列者の属性識別は山崎文書（青柳種信関係資料）1401（福岡市博物館所蔵）、香椎宮資料571（香椎宮所蔵）による。

答えシート

絵図にみる文化元年(1804)の香椎宮奉幣使参向

絵図に隠されたナゾの答え

奉幣使　四辻公説(よつつじ きんこと)御参向のとき、秋月藩士の吉村平蔵が藩命により当日参列し、自らその実景を書写したという。(「奉幣使参拝之図」香椎宮所蔵)

【ナゾ1の答え】

菰(こも)で覆われて隠されたから。
仏教に関わるものや不浄なものは、奉幣使から見えないよう隠されたんだ。

【ナゾ2の答え】

絵図では全部で199人数えられるので、正解はウ。

《参考》文献史料が示す参集者
絵図には全員は描ききれなかったようだね。
・奉幣使の供奉(ぐぶ)は129人
・香椎宮に参集した筑前国中の社家は300人余や401人ともいわれているよ。
・その他、黒田家家臣など

【ナゾ3の答え】

一人だけいる坊主の人は、香椎宮別当寺(神社を管理するお寺)の護国寺の座主(最上位の住職)だよ。
護国寺座主は祭事に関わることができず、着座のみ許可されたそう。

出典：香椎宮資料「香椎宮奉幣使参拝之図」

補足シート

福岡藩御用商人による当時のうわさ話の記録

文化元年（一八〇四）四月十一日

○人払に付不相分事に候へ共、其節大日堂・観音堂抔薦包相成居申候に付、其内に随し居申候て拝見之人之咄也。扨又右御社参之前夜俄に御宮近辺に有之候大日堂・観音堂・弁天堂・護摩堂之類薦包に相成、護国寺之塀之上くはだんずにて包、少しも仏家かゝり候処不見様に相成何事に候哉、護国寺は不及申一派之僧沙汰悪敷、松源院抔殊外不評判也。又武内は更也。神主之方勢ひ能、諸人参詣仕、札等請候も皆武内より受る。且武内屋敷は先達より御上より御普請被仰付、新に座敷建、きれいなる事也。

人払いされたので詳細はわからないが、
このとき大日堂・観音堂などを菰で包んで
隠すのに従事した人の話を聞くと、

**奉幣使御社参の前夜、にわかに香椎宮
近辺にある大日堂・観音堂・弁天堂・
護摩堂の類は菰（こも）で包まれた。**

**少しも仏教が関係するところが見えない
ようになったのは何事なのか。**

護国寺（香椎宮の別当寺）は言うに及ばず、
一派の僧の評判は悪く、松源院（荒戸に
あった東照宮の宮司坊）など、とりわけ
不評である。

福岡藩御用商人・加瀬元春肖像
（福岡市博物館所蔵）

**自分たちが日常的に
信仰している仏教関係
の施設を菰で隠すという
異様な光景に衝撃を受け
る。**

（「加瀬家記録」＜『日本都市生活史料集成　三　城下町篇1』学習研究社、1975年＞）

絵図にみえる文化元年(1804)奉幣使参向のまとめ

- **参集者**

  絵図にみえる参集者は約２００人、
  ただし、**文献史料からは３００人以上**確認できます。

- **仏教色排除の動き**

  奉幣使参向の際、**仏教色を排除する動き**がみられました。
  　例）大日堂や鐘楼などを菰で隠した
  御用商人の加瀬元春は、菰隠しに従事した人から話を聞き、**驚いた**ことを書き留めています。

  香椎宮の別当寺である**護国寺の座主**（座主（ざす）：最高位の住職）**は、着座のみ許可**され、祭事に携わることはできませんでした。

仏教色排除の動きは、明治維新期の神仏分離・廃仏毀釈の萌芽（ほうが）と捉える考え方もある

注意！

勅祭当日10月9日について、ご参列は香椎宮から事前にご案内を差し上げた方のみとなります。
また、当日は香椎宮への出入が一部制限される予定です。これに伴い勅祭のご見学は出来ませんので予めご了承ください。
なお、香椎宮による当日の模様のライブストリーミングが予定されています。詳細については香椎宮の公式サイトをご確認ください。

主要参考文献･資料

- 高埜利彦「近世奉幣使考」（初出、『歴史学研究』500号、1982年）
- 香椎宮社務所編『香椎宮御由緒』（香椎宮社務所、1983年）
- 門司成重『香椎宮奉幣使(藩制時代)についての記録 [1輯]』（1988年）
- 門司成重『香椎宮奉幣使(藩制時代)についての記録 2輯 (復活延享元年甲子度並文化元年甲子度分等)』（1989年）
- 廣渡正利『香椎宮史』（文献出版、1997年）
- 田中由利子「近世における地方神社の触頭支配確立：香椎宮奉幣使発遣を契機とした福岡藩桜井神社の触頭化をめぐって」（『比較社会文化研究』31、 2012）